

B-11 絹織物の劣化に関する研究

高知大 ○西村 久子
吉川 せつ

絹織物はその独特のしなやかさ、感触その他の総合されたいわゆる風合いが特に珍重されるものであり、これに影響を与える整理処理は重要な問題点である。前年度の絹織物の洗浄性に関する研究に引き続いて洗浄後の整理処理が絹織物の劣化に如何に影響するかを研究の目的とした。最近絹織物に関してその組成上または繊維改質等についての研究は相当に進んでいるが、仕上げ処理に関する方法等については在来の洗い張り屋のやり方から一步も出ていない状態でその点新しい被服管理の面から取り残されている観がある。

実験条件は洗剤種類、洗浄温度、機械力、脱水乾燥法を異にした洗濯法で処理した絹平織の劣化状態を知るため光沢の消失、黄褐変、引張り強度、剛軟度等を測定した。この試験布および和服材料としての強撚糸織物を試料とし仕上げ法としてはアイロン、スチームアイロン、伸子、湯伸し器を用い仕上げ剤としては加工澱粉糊料、化学糊料、その他在来のふのり等を使用、またこれらに界面活性剤を添加使用して仕上げを行ない劣化の回復状態を上記の測定によって検討した。尚総合された風合いの変化は熟練した取り扱い業者に依頼比較検討を行なった。

その結果家庭における絹織物の取り扱いの中その劣化は洗濯条件が相当に影響を与えまた仕上げ法、仕上げ剤等の用い方で劣化の回復状態も異なることがわかった。